

令和7年度 第1回「墨田区子ども・子育て会議」議事要旨

日時：令和7年4月23日（火）午後6時30分～午後8時00分

会場：墨田区役所13階 131会議室

次第

- 1 開会
- 2 副区長挨拶
- 3 委員の委嘱及び任命について
- 4 区からの諮問
- 5 墨田区子ども・子育て会議の目的等について（資料2）
- 6 委員紹介
- 7 会長及び副会長の互選
- 8 議題
 - （1）墨田区こども条例について（資料3）
 - （2）墨田区こども計画について（資料4）
 - （3）令和7年度の子ども・子育て会議の議題及び進め方について（資料5）
 - （4）報告事項
 - ア 「みんなであそぼう！こどもわくわくフェスティバル」について（資料6）
 - イ 令和7年度子育て支援活動助成事業について（資料7）
 - ウ 「ハロカルホリデーすみだ」について（資料8）
- 9 事務連絡
 - （1）次回開催予定
令和7年8月19日（火） 午後6時30分から
すみだリバーサイドホール イベントホール
- 10 閉会

配布資料

- 資料1：墨田区子ども・子育て会議委員名簿
資料2：墨田区子ども・子育て会議の目的等について
資料3：墨田区こども条例
資料4：墨田区こども計画（概要版）
資料5：令和7年度の子ども・子育て会議の議題及び進め方について
資料6：「みんなであそぼう！こどもわくわくフェスティバル」チラシ
資料7：令和6年度子育て支援活動助成事業チラシ

資料8：「ハロカルホリデーすみだ」チラシ

出席者（敬称略）

○委員

西村 孝幸（墨田区私立保育園協会）
西島 由美（墨田区医師会）
古屋 真（学識経験者（駒沢女子短期大学教授））
八重田 裕一郎（墨田区児童館）
東 百代（墨田区私立幼稚園連合会）
千原 祐子（墨田区子育てひろば）
出沼 俊夫（墨田区民生委員・児童委員協議会）
二藤部 智子（墨田区立小学校PTA協議会）
黒木 為則（墨田区立中学校PTA連合会）
田村 美帆（墨田区青少年委員協議会）
小林 厚子（墨田区青少年育成委員会連絡協議会）
佐藤 まり子（認証保育所連絡会）
賀川 祐二（すみだ子育て支援ねっと「はぐ」）
中村 彩子（小規模保育事業所連絡会）
稲吉 美穂（区民公募委員）
加藤 紗世（区民公募委員）
末田 豪（区民公募委員）
武田 舞（区民公募委員）
飛高 加奈子（区民公募委員）
眞能 貴代（区民公募委員）
山口 寛子（区民公募委員）
金澤 里美（墨田区立幼稚園長会）
増渕 裕美（墨田区立小学校長会）
遠藤 博則（墨田区立中学校長会）
竹嶋 啓子（墨田区立保育園長会）

傍聴者 なし

○事務局出席者

高橋 義之（子ども・子育て支援部長）、岩瀬 均（教育委員会事務局次長）、大島 悠樹（子育て支援課長）、遠田 和寛（子育て政策課長）、細谷 勇治（子ども施設課長）、桂本 圭子（指導検査課長）、野澤 典子（子育て支援総合センター館長）、梅原 和恵（副参事（子ども・家庭支援連携担当））、戸村 健太郎（地域教育支援課長）

議事概要

1 開会

2 副区長挨拶

3 委員の委嘱及び任命について

4 区からの諮問

「墨田区こども計画を踏まえた今後の子ども施策・子育て支援策のあり方について」について諮問された。

5 墨田区子ども・子育て会議の目的等について（資料2）

6 委員紹介

7 会長及び副会長の互選

会長に西村委員が、副会長に西島委員が選出された。

8 議題

（1）墨田区こども条例について（資料3）

事務局	こどもの大切な権利を守るとともに、こどもの権利等に関する考え方を区全体で共有することで、地域社会全体でこどもの健やかな成長を支えていくため、墨田区のこどもの声を反映した、こどものための条例を制定した。 制定に当たっては、ワークショップ、パブリック・コメント等で聴取したこどもの意見をできるだけ反映し、できるだけこどもに分かりやすい表現を用いている。 こどもの声を反映した「こどもの大切な権利」を明示するとともに、「保護者」「区民等」「区」等のそれぞれの役割を明記したほか、こども基本法の考え方に基づき、「こども」の定義を「心身の発達の過程にある人」とするとともに、「こども」の表記を統一している。 検討にあたっては、令和6年5月に実施した「こどもわくわくフェスティバル」、同年7～8月に児童館で計5回実施したワークショップ、同年9月に実施したジュニア・リーダー研修会ワークショップで、こどもたちから意見を聴取した。
委員	今後、周知方法や実効性の担保を考えていく必要がある。

（2）墨田区こども計画について（資料4）

事務局	本計画は、国のこども大綱及び都の子供・子育て支援総合計画等を勘案し、「墨田区こども条例」を推進していく計画として策定するもので、こども基本法に基づく市町村こども計画として策定するものである。 本計画の策定に当たっては、従前の「墨田区子ども・子育て支援総合計画」及び「墨田区子ども・若者計画」を一体化した計画として策定した。 本計画の期間は、令和7年度から令和11年度の5年間であり、また、『本計画は、墨田区こども条例を推進するための計画であることから、条例第3条の基本理念を本計画の基本理念としている。 「あるべき姿」として、「こどもまんなかすみだの実現」を掲げている。 こどもやこどもの育ちを家庭や地域社会で支え、こどもの権利やこどもとの対話を大切にすることで、人がつながる、こどもも大人も笑顔にあふれるまちを目指すものである。
-----	--

(3) 令和7年度の子ども・子育て会議の議題及び進め方について（資料5）

事務局	今年度は主に4つの議題を中心に議論を進めていく。 1つ目は、「墨田区子ども・子育て支援総合支援計画」の進捗状況の確認である。本計画は区の子ども・子育て支援の根幹をなすもので、「墨田区こども計画」における第Ⅱ部に該当する。各事業の評価指標や目標設定を行い、着実な進行を図っていく。 2つ目は、墨田区こども条例施行後の条例の浸透度と実効性の確認である。条例の趣旨や内容を広く周知するとともに、先日の区議会でも多くの意見があった「育ち学ぶ施設」の役割や「財政上の措置」について考え方を整理し、実効性を担保していく必要がある。 3つ目は、子ども・子育て支援施策の情報発信についてである。条例に基づき、子どもや保護者に対して透明性の高い情報発信を行うことが求められている。これは子どもの意見表明の基盤となる重要な取組である。 4つ目は、子どもの意見聴取の方法についてである。子どもの意見表明と地域社会への参画機会を確保するため、適切な意見聴取方法の確立が必要である。特に、様々な状況にある子どもの声を聴くための多様な方法を検討していく。 今年度は、計5回の会議を実施予定である。
委員	事務局の説明を受けて、今年度のおおよその方向性を確認できた。限られた回数にはなるが、議論を進めていきたい。 説明のあった方向性等を踏まえて、委員の皆様一言いただければと思う。

自己紹介を兼ねた感想・意気込みなど

委員	教育学や教育心理学の観点から、幼児期の子どもたちの育ちについて研究している。心理学的な手法というところで、子ども・子育て支援総合計画の実施状況や進捗をどのように評価していくのか、確認していきたい。
----	---

	委員の皆様方のご意見も聞きながら、計画の実行性を見ていけたらと楽しみにしている。
委員	前年度からこの会議に参加させていただき、墨田区の子育ての状況について、この会議を通して初めて知るといようなことがたくさんあった。 この会議の場で、子どもたちや保護者の方の様々な情報を発信したいと考えている。
委員	子育て家庭に寄り添いながら、地域のニーズに合わせた支援を行うことが役割であると考えている。この会議で学んだことを持ち帰り、子育て支援に生かしていきたい。
委員	初めて参加する。様々なことを学ぶ機会ができた嬉しく思う。自分の体験を共有していきたい。
委員	今年度から初めて参加する。この場で学んでいきたい。
委員	この場で学び、町会等を巻き込んで何かできたらと思う。
委員	今回初めて参加する。子どもと直に触れ合ったり、地域の方々との連携をしたりしているので、この場でディスカッションした内容や得た情報を広めていきたい。子どもの声の吸い上げもしていきたい。
委員	初めての参加で、一から勉強させていただくつもりである。
委員	保育園の園長をしている。保育目標で「自分の思いを出せる子ども」を掲げており、これは墨田区こども条例第13条にも関係する。子どもが自分の意見を表明しやすい環境づくりを考えていきたい。
委員	お子さんを預かる事業を実施しており、保護者の声を聴く機会がある。こうした声を会議にも反映していきたい。
委員	初めての参加である。「こどもまんなか」の考えを学び、周囲に共有していきたい。
委員	年齢の離れた3児を育てていて、「ママ友」のネットワークを感じている。そういった方々と交流を持ちながら、普段どんなことが不便か等、声を吸い上げる役割ができたらと思っている。
委員	2児を育てている。子どもと関わることがないか調べた際に、この会議を知った。
委員	子どもや若者にとって良いルールや制度ができたと感じている。また、保護者として、なかなか情報が伝わりにくい環境はあると思っている。この会議で得たものを生かし、子どもたちが積極的に意見表明できるような手伝いができればと思う。
委員	発達障害を持つ子どもの親の会に所属している。子どもたちをどのように支援していくか、親同士で話す機会があり、情報が必要なお子さんや保護者がとても多いことに気付いた。 今後、必要な方に情報を届けられたらと考え、参加している。様々な勉強させていただくとともに、保護者の意見を共有していきたい。

委員	「こどもまんなか」や「子どもの意見を聴く」ことは素晴らしいと思う。 大切に重大なことほど、子どもではなく親の意向になってしまいがちである。 それをどのように変えていけるのか関心がある。
委員	以前からこの会議に参加しており、自分の声も含め、墨田区の子どもに対する思いが形になっていく様子を実感している。それがさらにどう広がっていくかに興味があり、継続して携わらせていただく。
委員	今回初めて参加する。子どもから聞く話や保護者から聞く話、先生とのやり取りで気付くことや学ぶことが多いので、それらの声をこの会議で届けられたらと思う。 墨田区こども計画の中にあった、妊娠時からのサポートにとっても興味がある。女性に課せられる社会的な責任や、それが今育てる子どもにつながっていく様子を身近で見ているので、そういったことも伝えていきたいと思う。
委員	以前からこの会議に参加している。 お子さんの実態や保護者の実態の多様化を感じている。そういった中で、どのようなことが子どもの幸せにつながるのかを考えていきたいと思う。
委員	墨田区の子どもの教育に携わっている。教育現場の子どもの声をしっかりとこの会議で届けるとともに、どのようなニーズがあるのか、働きながら子育てしている保護者の声もここで届けていきたい。また、会議の内容を持ち帰り、周囲に広めていきたいと思う。
委員	この会議で勉強し、周囲に伝えていきたい。 また、特徴のある教育現場に勤めているので、この場で情報を共有していきたい。
委員	保育に携わり、修学前の子どもたちを目の前で見ている中で、父親の育児参加が増えていることを感じている。子どもがいきいきと過ごせるような環境づくりのため、この場で保育現場の姿を共有するとともに、保護者の方に区の子育て支援を広めていきたい。また、区のさらに良い子育てを考えていきたい。
委員	児童館や学童クラブの立場から、子どもや保護者の声をこの場でお伝えできればと思っている。
委員	継続して参加する。小児科医として働いており、母親と話す機会が多いため、保護者の意見を聴くことは得意な方であると思う。様々な機会をとらえて、保護者や子どもの声を聴き、共有していきたい。たくさんの委員の方がいて、大変心強く思っている。今回も頑張らせていただきたい。
委員	皆様の意見を聞きながら、今期も活発かつ前向きな議論ができればと思っている。

(4) 報告事項

ア 「みんなであそぼう！こどもわくわくフェスティバル」について（資料6）

事務局	本イベントは、区民や地域と一緒にみんなでつくる・すすめる「こどもまんなかすみだ」の定着に向けて、地域の皆様とともにつくる子どものためのイベントで、墨田区子ども・子育て会議と墨田区が主催となって開催するものである。 昨年度、「こどもまんなかすみだ」のキックオフイベントとして開催し、大変好評であった。今年度は、先に制定・策定された「墨田区こども条例」や「墨田区こども計画」を、子どもから大人まで含めた区民に知っていただくことを目的に実施する。 遊び体験コーナーは、区内の子ども、子育て支援に携わっている各団体による、輪投げや射的などの様々な遊びを体験できるコーナーである。 メインステージは、子どもたちによるダンスや太鼓の演奏のほか、トリフォニーホール・ジュニア・オーケストラのメンバーによる演奏等を企画している。 芝生広場は、巨大迷路やサッカー体験などを企画している。 飲食コーナーは、キッズメニューなどを取り揃えているキッチンカーが出店予定である。 なお、本イベントの趣旨の一つとして、経済的に裕福でない家庭の子どもも楽しむことができるよう、誰でも参加できるイベントを目指しており、今回出店いただくキッチンカーは、その趣旨に賛同いただき、全てワンコイン（500 円）以下で食べられるメニューを用意いただいている。 周知チラシは、区内小中学校をはじめとして、区内各施設に配布していく。また、イベントの内容を、区のホームページや LINE 等で随時発信していく。
委員	遊び体験コーナーは、予約やチケット制なのか。また、クレジット費用はかかるのか。
事務局	並ぶ時に整理券を配布する等の対応は、各ブース出店者でルールを決めている。基本的に参加費は無料であるが、駄菓子の原価での販売など、一部団体で実費相当分を徴収する場合もある。出店料は無料としている。
委員	昨年このイベントに出店した。会場近くの子どもはたくさん参加していたが、本所や両国等の子どもたちが文花の会場を訪れるのは大変で、あまり参加していない。改善点をどのように考えているのか。 また、去年はトイレが少なかったが、今年は改善されているのか。
事務局	一つ目の交通の利便性について、本イベントは、地域の子育てに参加いただいている地区の関係者や、大学等の関係団体のご協力を得ながら、会場を選んでいる。文花地区で開催することにあたってアクセスの課題はあるが、子育て世代に向けたイベントを開催するということでご了承いただきたい。 二つ目のトイレについて、昨年度の課題であったので、今年は iU さんにお借りすることで調整しているほか、昨年に続き文花中学校さんのトイレもお借りできることになっている。イベント当日は、案内を徹底し、トイレ利用者の分散を図るよう運営していく。

委員	昨年はアクセスが不便な面もありながら、想定以上に子どもたちに来場いただいた実感がある。お話をいただいたように、改善や検討すべきところもあるかと思うので、また開催する中で忌憚のないご意見をいただきながら、来年以降にどのようにできるかを検討させていただければと思う。 区と子ども・子育て会議の共催事業である。ぜひ良いものにできたらと思っている。
----	--

イ 令和7年度子育て支援活動助成事業について（資料7）

事務局	本事業は、区内で子育て支援活動を実施する団体の活動経費を助成することにより、地域における子育て支援活動の活性化を図り、もって、区内の子育て環境を充実させることを目的に実施している。 昨年度は、資料7のとおり募集したところ10団体から申請があり、そのうち8団体に助成した。 申込期限は、今年度から、申込み時期を1か月ほど前倒しして実施できるよう調整中である。詳細は、区公式ウェブサイト等で周知していく。 助成団体の選定にあたっては、子ども・子育て会議の会長、副会長、公募委員により構成された審査会で審査し、助成事業を決定している。
委員	申込み期限が1か月前倒しになるとのことだが、プレゼンテーションの日程は8月で変わらないのか。
事務局	プレゼンテーションの日程も前倒しにする方向で検討中である。
委員	これまでは、8月にプレゼンテーションを行い、9月に助成が決定されていた。その後に講師依頼や会場確保等となると、事業実施が3月になることが多かった。 昨年、本事業を活用し、引きこもりや思春期の子どもとの向き合い方の講演会を行ったが、学校の先生から「参加したかったが、卒業式等で忙しく参加できなかった」との声をいただいていた。スケジュールを早めていただけると、3月以前に開催できると思っている。検討いただけると幸いである。
委員	事前に説明会等を開く予定はあるのか。
事務局	説明会は開催していないが、お問い合わせいただければ丁寧に説明させていただきます。区のホームページで周知していくほか、区報等で紹介していくので、ご覧いただければと思う。
委員	説明会を開催すれば、本事業に興味がある方がどのような視点をお持ちであるのか、意見を集める機会にもなるのではないかと考えた。
委員	対象は「区内で子育て支援活動をしている非営利団体」となっているが、子育て支援活動をしている非営利団体ではない方が参加を希望する場合、非営利団体と登録をする必要があるのか。
事務局	本事業は、営利目的のない子育て支援活動を助成するものなので、営利を目的とする団体は、本事業の対象にはならないことをご理解いただければと思う。

委員	何か事業をしている方が、子育て支援として、自宅等で何かをしたいという場合があるのではないかと考えた。 例えば、カフェを営業していて、そこに子どもが集まってきているので自分も何かできるのではと考える方がいるのであれば、そういった方も非営利団体として登録をした方がいいのか、別の機会に子育て支援活動に参加していくのか、そういった区別についてお伺いできればと思う。
事務局	営利団体が私的な非営利活動をすることについて、そういった活動により、本来事業の宣伝になってしまう等の影響があるものだと考える。本事業については、非営利団体であることを条件の一つにしているので、適応する団体の方に助成をしているところである。
委員	自己への利益誘導にならない方を対象にしていることを承知した。
委員	昨年審査員として参加したが、様々な活動が墨田区にあることを実感した。お近くの知り合いの方で、こういったものにご興味がありそうな活動をしている方がいれば、ぜひお声掛けいただければと思う。

ウ 「ハロカルホリデーすみだ」について（資料8）

事務局	区では、「こどもまんなかすみだ」を掲げ、子育て施策に力を入れているところであり、令和7年度の「こどもまんなかすみだ」の目玉事業として、「子どもの体験活動支援事業、ハロカルホリデーすみだ」を実施する。 これは、区内の小学生を対象に、区内での文化活動、音楽芸術活動、スポーツ、自然体験等といった体験活動に利用できる 5,000 円分のポイントを提供する事業である。 令和6年度に、公益社団法人チャンス・フォー・チルドレンが実施した取組であり、今年度は本事業の実行委員会を立ち上げ、区、地域団体、チャンス・フォー・チルドレン等が協力することで、定員を 3,000 人に拡大して実施する。
委員	去年は対象者が 1,000 人だったところ、3,000 人に拡大するというので、受け皿が必要になると思う。ご興味がありそうな方がいればぜひお声掛けいただき、子どもたちの多様な体験の幅を広げるのにご協力いただければと思う。

9 事務連絡

業務連絡／次回開催について

事務局	今回は、8月19日（火）午後6時30分から、すみだリバーサイドホールで開催する。
-----	---

10 閉会

以上